

**製品名: Stat4 (リン酸化 Tyr693) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05483**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP                             |
| 反応性    | 人間、マウス、ラット、サル                                      |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | リン酸化   |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |   |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000,IP 1:20-1:50 |
| 分子量  | 86kDa   |

**抗原情報**

|              |  |
|--------------|--|
| 遺伝子名         | STAT4  |
| 別名           | STAT4; Signal transducer and activator of transcription 4        |
| 遺伝子 ID       | 6775.0   |
| SwissProt ID | Q14765   |
| 免疫原          | 抗血清は、ヒト STAT4 の Tyr693 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 660-709 |

**背景**

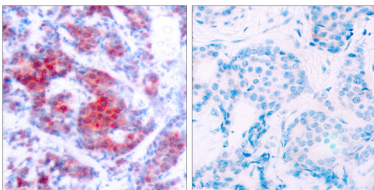
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子 STAT ファミリーのメンバーです。サイトカインや成長因子に反応し

て、STATファミリーのメンバーは受容体関連キナーゼによってリン酸化され、ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成して細胞核に移行し、そこで転写活性化因子として作用します。このタンパク質は、リンパ球におけるIL-12への反応の媒介、およびヘルパーT細胞の分化制御に不可欠です。この遺伝子の変異は、全身性エリテマトーデスおよび関節リウマチに関連する可能性があります。選択的スプライシングにより、同じタンパク質をコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq提供、2011年8月]、疾患：STAT4の遺伝的変異は、関節リウマチ（RA）の感受性に関連しています[MIM:180300]。関節リウマチは、複雑な多因子疾患です。これは最も一般的な自己免疫疾患の1つであり、滑膜組織の炎症と関節破壊を特徴とする。、疾患：STAT4の遺伝的変異は、全身性エリテマトーデス11型（SLEB11）[MIM:612253]に対する感受性に関連している。全身性エリテマトーデス（SLE）は、複雑な遺伝学的根拠を持つ慢性自己免疫疾患である。SLEは、主に皮膚、関節、腎臓、漿膜の障害を特徴とする、炎症性でしばしば発熱を伴う結合組織の多臓器疾患である。自己免疫系の調節機構の不全を示すと考えられている。、機能：シグナル伝達と転写の活性化という2つの機能を果たす。IL12シグナル伝達に関与する。、PTM：リン酸化チロシン。セリンリン酸化は転写活性の最大化にも必要である。、類似性：転写因子STATファミリーに属する。、類似性：1つのSH2ドメインを含む。、細胞内局在：リン酸化に反応して核内に移行する。、サブユニット：関連ファミリーメンバーとホモ二量体またはヘテロ二量体を形成する（類似性による）。SH2ドメインは、in vitroにおいて、短い細胞質ドメインを介してIL12RB2と相互作用する。、

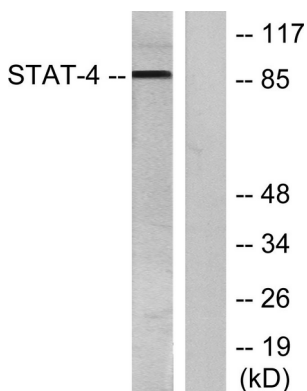
## 研究分野

ジャク\_STAT;

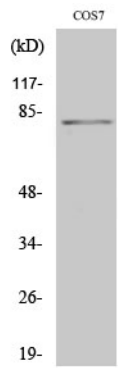
## 画像データ



STAT4（リン酸化 Tyr693）抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



IL-4処理したHeLa細胞ライセートのSTAT4（リン酸化Tyr693）抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



Phospho-Stat4 (Y693) ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析